令和７年度「品川区学力定着度調査」の結果から明らかになった課題と学力向上に向けた取組

「品川区学力定着度調査」の趣旨

(1)学習指導要領に示された教科の目標や内容の実現状況を把握し、教育課程や指導方法等に関わる区の課題を明確にすることで、その充実・改善を図るとともに、区の教育施策に生かす。

(2)各学校は、教育課程や指導方法に関わる自校の課題・解決策を明確にするとともに、調査結果を経年で把握することで、児童・生徒一人一人の学力の向上を図る。

(3)区民に対し、区立学校における児童・生徒の学力等の状況について、広く理解を求める。

1　調 査 日　令和７年４月１５日（火）

2　調査対象　品川区立学校　第２～９学年の全児童・生徒

3　調査内容

教科に関する調査

→　調査の趣旨に基づき、学習指導要領に定める内容について、基礎・基本および活用の力を測る問題で構成

<第２・３学年>　国語、算数
<第４～５学年>　国語、社会、算数、理科
<第　６　学年>　国語、社会、算数、理科、英語
<第７～９学年>　国語、社会、数学、理科、英語

品川区立清水台小学校

■国語科

品川区立清水台小学校
令和７年度　学力調査分析

◆学校全体の結果分析◆
総合的には、目標値を上回ることができ、継続して取り組んできた国語科の指導の成果が表れた。「漢字を書く」ことや、話や情報を正しく理解し「文章を書く」ことに課題が見られる学年が多い。

■学年ごとの具体的な課題と原因

目標値を下回る内容は以下の通り。

学年	内容と出題のねらい	課題の原因として考えられること
２年	○ことばの学しゅう 共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。 ○文しょうをかく 伝えたいことを明確にしている。	・問題文を理解し、適切な答えを選択することができない。 ・決められた課題に合わせて文章を書くことに慣れていない。また、文章を書くこと自体に抵抗感をもっている児童もいる。
３年	○かん字を書く 第２学年に配当されている漢字を正しく書いている。 ○ことばの学習 漢字の正しい筆順を理解する。 身近なことを表す語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。	・既習漢字が定着していない。日常から意識的に漢字を使おうとしていない。 ・話したり、書いたりする際、用いる語句が限られていて、豊かな表現ができていない。
４年	○話の内容を聞き取る 話し手が伝えたいことの中心を捉えている。 ○漢字を読む・書く 第３学年に配当されている漢字を正しく読んだり書いたりしている。 ○文章を書く 書く内容の中心を明確にして、文章の構成を考えている。 自分の考えを明確にして文章を書いている。	・既習漢字が定着していない。日常的に既習漢字を使う意識が低い。 ・話の中心となる話題を意識して聞いたり、書いたり、話したりする意識が低い。 ・話す時や書く時に相手に伝わりやすい型を把握していない。
５年	○漢字を書く 第４学年に配当されている漢字を正しく書いている。	・既習漢字が定着していない。文章を書くときに、習った漢字を使おうとしていない。
６年	○漢字を書く 第５学年に配当されている漢字を正しく書いている。 ○文章を書く 指定された長さで文章を書いている。	・既習漢字が定着していない。日常的に既習漢字を使う意識が低い。書き順等も正しく書けない。 ・自分の意見について理由を明確にし、指定された文字数でまとめる力が不十分である。

■課題解決のための方策（取組指標）

２年	・決められた課題に沿って文章を書く練習を積み重ね、分かりやすい文章が書けるように指導していく。文章を書くことが楽しいと思えるような課題を示し、100 字程度の文章が抵抗感なく書けるようにしていく。 ・文章を読むときには、分かっていることや聞かれていることなどを整理し、内容をしっかりと読み取る力をつけていく。
３年	・既習漢字の定着を図るために、繰り返し練習をする機会を設け、50 問テストへの取り組みを通して漢字の定着を目指す。また、文章を書く時には、既習漢字を使い、表現することを習慣づけていく。 ・聞いたり読んだりする際に新しい言葉に着目し、必要に応じて辞書を活用することで、語句の意味を正しくとらえ、色々な表現を使えるようにする。
４年	・既習漢字の定着を図るために漢字テストを定期的に行う。 ・文章を書く際に、既習漢字を使って書けるよう、漢字に変換させる習慣をつける。 ・朝のスピーチの際にテーマを決め、それが伝わる文章を話す練習をさせる。
５年	・漢字小テスト（10 問）を定期的に行うことで、既習の漢字の定着を図る。 ・授業の振り返りなどは習った漢字を使って文章を書かせるようにする。
６年	・週に１回の漢字小テスト（10 問）を行い、採点後に直しも行うことで、既習の漢字の定着を図る。 ・自主学習等で文章を書く活動を取り入れ、正しく漢字を用いて書けるように指導していく。 ・筆者が伝えたいことを確認し、筆者の意見と自分の経験などの相違点を見付けながら根拠をもとに自分の考えを書く機会を増やしていく。また、文章の組み立て方を身に付けられるように指導していく。

■次年度の数値目標

・全学年、教科全体の正答率で全国値を上回る。
・各学年、「漢字を書く」「文章を書く」の領域で目標値を上回る。

■算数科

品川区立清水台小学校
令和７年度　学力調査分析

◆学校全体の結果分析◆
どの学年も概ね目標値、全国正答率を上回ることができたが、観点別にみると目標値、全国正答率を下回っている項目のある学年もあった。問題の内容や情報を正しく読み取ることに課題が見られる。数の概念的な単元を苦手とする学年が多いことも傾向といえる。

■学年ごとの具体的な課題と原因

目標値を下回る内容は以下の通り。

学年	内容と出題のねらい	課題の原因として考えられること
２年	○120 までのかず 位取り記数法を理解している。 100 までの数の系列を理解している。 ○ひきざん 繰り下がりのあるひき算の考え方を説明している。 減法を適用して、順序数を集合数の文章問題を解いている。 ○とけい 何時何分を示す時計を理解している。	・位取りの理解が不十分だったり、いくつとびで数が並んでいるのかを考えられなかったりする。 ・繰り下がりのあるひき算の計算の仕方は理解できていても、それを言葉で説明することが苦手である。 ・順序数を説明している問題文が理解できず、正しい答えを導き出すことができていない。 ・時刻を読むことが苦手な児童がいる。
３年	○10000 までの数・分数 数の大小と不等号の意味を理解している。 ○たし算・ひき算 加法の結合法則を用いた計算の工夫を理解している。 ○長さ・かさ １L＝10dL であることを理解し、リットルますに入った水のかさを、L と dL で表すことができる。	・数の大きさを正しくとらえられていないため、大小の関係がつかめない。 ・具体的な場面をイメージして、結合法則や交換法則を使うことができていない。 ・長さやかさの単位が正確に理解できていないため単位換算ができない。
４年	○大きい数・小数・分数 整数・小数・分数の数のしくみを理解している。 ○円と球・三角形 ボールが１こ入った箱の辺の長さから、ボールの半径を求めることができる。 ○わり算 余りを切り上げて答えを求めることができ、その理由を説明している。	・数のしくみを数量としてとらえられていない。 ・十進位取りが定着していない。 ・既習の知識を複合的に活用することが苦手である。 ・かけ算が定着していない児童が多く、答えの見当が付けられない。
５年	○変わり方調べ 伴って変わる２つの数量の関係を式に表すことができる。	・伴って変わる２つの数量の関係をとらえることが不十分である。表や式を用いて変化や対応の特徴を考察する力が苦手である。
６年	○割合 基準量と比較量から割合を求めることができる。 ○整数の仲間分け 最大公約数を使って、問題を解決している。	・基準量と割合の計算の仕方や求めた比較量の比べ方の理解が十分でない。百分率や歩合による割合の表し方の理解が十分でない。 ・乗法や除法に着目し観点を決めて整数を類別したり、数の構成について考察したりすることが苦手である。

■課題解決のための方策（取組指標）

２年	・数の概念や計算の学習では常に位を意識させ、計算方法を言葉で説明できる力を付けていく。 ・問題文を正しく読み取り、図にかき表して答えを導き出せるように、朝学習や宿題で練習を積み重ねていく。 ・学校生活と時刻を関連させ、時刻を読む機会を増やしたり、時刻を基に行動できる声掛けをしたりしながら、定着を図る。
３年	・問題を図に表したり、式に□や（）を用いたりして、加法減法の関係を正しくとらえられるようにする。 ・数を 10 のまとまりとしてとらえたり、位ごとに整理したりすることで、数の仕組みを理解し、数についての感覚を豊かにする。 ・長さやかさなどの単位量問題は、実際の量を見せるなど視覚的に理解させる。
４年	・百マス計算やプリント演習などを行い、日々復習を繰り返し、かけ算・わり算・今までの知識の定着を図る。 ・数のまとまりに注目させ、計算処理の仕方だけではなく、考え方を説明させる。 ・文章題の必要な数に印を付けたり、図などに表したりすることで、計算の仕方を考えさせる。
５年	・図や式を読み取り、式に表せるように学習で取り組んだり、支援したりする。また、数値の変化をグラフで表せるように時間を取り指導してく。
６年	・図や式等を用いて、全体と部分の関係、部分と部分の関係が理解できるようにする。百分率が日常生活の中で用いられていることに気づくことができるよう支援する。 ・最大公約数や最小公倍数の意味を指導するとともに、具体的な場面に即して指導することで、理解を図るようにする。

■次年度の数値目標

・全学年、教科全体の正答率で全国値を上回る。
・各学年、課題が見られた領域で目標値を上回る。

■社会科

品川区立清水台小学校
令和７年度　学力調査分析

◆学校全体の結果分析◆
各学年の正答率は、全国値を上回ることができ、ICT 機器の活用による視覚的に分かりやすい授業を行ってきたことの成果が表れた。また、児童がタブレット端末を活用する調べ学習等に取り組むことで、目標値を上回ることができたといえる。

■学年ごとの具体的な課題と原因

目標値を下回る内容は以下の通り。

学年	内容と出題のねらい	課題の原因として考えられること
４年	○工場の仕事 工場の仕事の工程について資料を読み取っている。 ○店ではたらく人 商品の産地について、複数の資料を読み取っている。 ○安全なくらし–事故や事件 警察の仕事について理解している。 ○くらしの移り変わり 生活道具の変化や人々の暮らしの様子の変化について理解している。	・表やグラフなどの資料から適切な情報を見付け出したり、そこから分かることを結論付けたりすることができない。 ・基礎的な知識が定着していない。
５年	○くらしをささえる水 浄水場の役割にいて、資料をもとに表現している。 ○自然災害からくらしを守る－地震 地震が起きた時の自衛隊の役割について理解している。 ○先人の働き 明治用水ができる前の地域の様子について、複数の資料をもとに考え表現している。	・用語の意味などの基礎知識が定着していない。 ・資料から適切な情報を見付け出して読むことや、複合した資料から結論を導き出すことが苦手である。
６年	○日本の農業 米づくりの作業について理解している。 ○情報を生かした産業 マスメディアについて理解している。	・グラフや資料を読み取る力が不十分である。 ・テレビやラジオ、新聞などの総称など、知識が不足している。

■課題解決のための方策（取組指標）

４年	・既習の基礎的な内容を関連する授業で確認する機会を定期的に設ける。 ・資料やグラフ、地図の読み取りから分かったことを自分の言葉で表現したり、日常の場面に結び付けたりする機会を毎時設定する。
５年	・用語の意味などの基礎的な知識を単元ごとに定着を図れる機会を定期的に設ける。 ・資料の読み取りは課題を明確にしたり、読み取る視点を明示したりすることによって資料活用の力を伸ばす。
６年	・各単元で身に付けるべき知識を確実に身に付けられるように繰り返し知識の定着度を確認する機会（小テスト等）を設ける。 ・グラフや資料を読み取る機会を毎授業で設ける。

■次年度の数値目標

・全学年、教科全体の正答率で全国値を上回る。
・各学年、課題が見られた領域で目標値を上回る。

■理科

品川区立清水台小学校
令和７年度　学力調査分析

◆学校全体の結果分析◆

教科の正答率は、目標値に対して概ね上回ることができている。観点別にみると、どの学年も目標値に対しての正答率が若干下回っている項目が例年より多い。問題の内容やグラフの情報などを正しく読み取り、それらを活用して考え、まとめることに課題がある。

■学年ごとの具体的な課題と原因

目標値を下回る内容は以下の通り。

学年	内容と出題のねらい	課題の原因として考えられること
４年	○太陽と地面のようす 日かげの地面のようすについて理解している。 ○電気の通り道 豆電球に明かりがつく回路を理解している。 ○じしゃくのせいしつ 実験から、磁石の性質を理解する。 ○物の重さ 電子てんびんの使い方を身に付けている。 ケーキの切り分け方が違っていても、ケーキ全体の重さは変わらないことを説明できる。	・基礎的な知識の定着が十分ではない。 ・学習した内容をもとに、類推して考えることが難しい。 ・問題文を正確に読み取る力、考えを表現する力に課題がある。
５年	○１年間の植物の成長 季節ごとの植物のようすについて理解している。 ○１年間の動物のようす 季節ごとの動物のようすを理解している。	・基礎的な知識の定着が十分ではない。動植物の事象と区別が付いていないものがある。 ・実験の結果から分かることを考察や結論としてまとめる力が不十分なため、関連する事象と結び付けて考えることが難しい。
６年	○天気の変化 アメダスについて理解している。 ○ふりこのきまり ふりこの振れ幅について理解している。 ふりこの周期の平均を求めるための式を指摘できる。	・アメダスの用語が定着していない。 ・ふりこの振れ幅の用語が定着していない。 ・実験の回数や往復数のどちらかだけで計算してしまい、１往復する時間が正確に求められない。

■課題解決のための方策（取組指標）

４年	・既習事項の復習時間を設け、繰り返し知識の定着を図る。 ・予想や結論を、根拠をもって書く時間を単元ごとに確保し、文章を読み取ったり、考えを表現したりする力の向上を図る。
５年	・学習内容を身の回りの事象と関連付けることで、実感を伴った学習内容の理解を図る。 ・用語の意味や事象などの基礎知識は、繰り返しの演習を通して確実な定着を図り、確認する機会を設ける。
６年	・各単元で身に付けるべき知識を確実に身に付けられるように繰り返し知識の定着度を確認する機会を設ける。

■次年度の数値目標

・全学年、教科全体の正答率で全国値を上回る。
・各学年、課題が見られた領域で目標値を上回る。

■英語

品川区立清水台小学校
令和７年度　学力調査分析

◆学校全体の結果分析◆

全体としては目標値を上回ることができたが、「基礎」に比べ、「活用」の正答率が低かった。領域的には、「聞くこと」のポイントが高く、「読むこと」「書くこと」のポイントが低い点が課題である。観点別では、バランスよく得点を得ることができていた。

■学年ごとの具体的な課題と原因

目標値を下回る内容は以下の通り。

学年	内容と出題のねらい	課題の原因として考えられること
６年	○アルファベットの読み（聞く） 活字体で書かれた文字を識別し、その読み方を身に付けている。 ○英文の完成 もののありかをたずねる場面で、対話の流れから、探しているものの語句を判断して書いている。	・問題の形式に慣れておらず、正しい選択肢が選べていない。また授業では文字の音で読むことが増え、正しい文字（アルファベット）の名前を忘れてしまっている。 ・語彙力の不足により、分からない単語を推測することが難しい。

■課題解決のための方策（取組指標）

６年	・文字の名前を読んだり聞いたりする学習を積み重ねていく。 ・普段の学校生活の中でも、話の内容を意識したり、推測したりして聞き取るなどを身に付けられるよう指導する。 ・メトロラーニングなどに取り組んだり、教科書に出てくる歌などを一緒に歌ったりして、英語を正しく発音する力を身に付けられるように授業を組み立てる。 ・各単元の終わりにはその単元で学習したことをもとに発表する機会を設け、英作文を書いたり、話したりできるように指導していく。

■次年度の数値目標

・全学年、教科全体の正答率で全国値を上回る。
・各学年、「活用」問題、「読むこと」「書くこと」の領域で目標値を上回る。